



冬至のころ

冬至は太陽の黄経が270度の日で1年でいちばん昼の時間の短い日である。札幌で昼の長さは9時間1分、稚内は8時間46分で、北へいくほど短くなる、また正午の影法師は1年中でいちばん長くなり、札幌では夏至の約7倍にも長くなる。ところが冬至は日没の最も早い日ではないことは意外と知られていない。

冬至10日前とって、日没の最も早いのは、12月上旬から中旬にかけてであり、札幌で16時丁度であり、12月7日から13日で7日間続く。それと同じように冬至の日の出が札幌で、7時3分であ

るが元旦には7時6分と最も遅くなる。そして1月8日迄同じ時刻の日の出である。冬至後に日の出の時刻が3分も遅くなることも余り知られていないどころか信じてもらえないかも知れない。

「冬至冬なか冬はじめ」の言葉があるように、平均的に見て寒さの本番はこれからで真冬日は冬至後に始まり、2月中旬、下旬まで続くのが普通であるが今冬は、大変にその趣が異なるように思えてならない。今冬のように例年より1カ月以上も早く冬将軍が、流水と連日真冬日の未曾有の強力寒気団を従えて本道に居座ってしまい、流水の年内接岸記録を更新し真冬日の日数も12月としては記録的と聞く。そのせいで年末年始の空陸のダイヤの乱れは極に達し、新年早々本州中西部の大雪は41年振りのものと報じられた。

今冬はこれからも真冬日の続く寒い年なのかも知れない。本道では真冬日が100日以上という所もあるような年は札幌でも65日程度はあると聞く。希望的観測を夢見るのは甘すぎるというお叱りをいただくかも知れないけれど、このように早々と冬将軍が来てしまった年は或は、春のおとずれも意外と早いのでは？果して。夢物語でないことを祈りながら。

(雨田 実記)

